

玉川ーカルテック ジョイントレクチャー コース開催

坂上雅道 ●脳科学研究所教授



今年で4回目を迎えるカリフォルニア工科大学とのジョイントレクチャーコース



ポスター発表について討論を行う参加者たち。今回は5カ国9人の研究者による講演も行われた

二〇一〇年三月三日から五日の三日間、玉川大学五号館二階二四九室において、玉川大学グローバルCOE主催で、玉川ーカルテック(カリフォルニア工科大学)ジョイントレクチャーコースを開催しました。本レクチャーコースは、玉川大学グローバルCOE「社会に生きる心の創成」プログラム活動の一つで、玉川大学、カリフォルニア工科大学の大学院生と若手研究者が世界最先

端の研究を知り、討論を通して交流を深め、国際的視野を身につけることを目的としています。

このレクチャーコースは、玉川大学グローバルCOEプログラムが始まる前の二〇〇七年から、毎年玉川大学・カリフォルニア工科大学交互に場所を変えて行われています。

今年も、玉川大学脳科学研究所の鮫島和行准教授とダブリン・トリニティーカレッジのJohn O. Doherty

教授による企画で、「意思決定」を

テーマに、この研究分野で世界の先頭を走る五カ国九人の研究者による講演が行われました。世界トップクラスの研究者による講演だけでなく、玉川大学・カリフォルニア工科大学の大学院生・若手研究者を中心に三八題のポスター発表もあり、両校の教官、講演者も交えて活発な討論が行われました。

* * *

今回のテーマである「意思決定」の研究では複数の選択肢があるときに私たちの脳がどのような計算を行い、決定を下すかということを知りたいです。今日の夕食は、イタリア料理にしようか、寿司にしようか、私たちは悩むことがあります。どちらにするか決めるのも脳の働きです。なんとなく、寿司が食べたいな、と思って決める場合もありますが、今日のお昼にスパゲッティを食べたから、夜はイタリアンはやめておこう、と考える場合もあります。

実際、脳には、いろんな記憶を動員しながら意識的にその価値を判断したり、無意識のうちに自動的に価値を計算したりする部分があり、これらの計算の総合的な結果によって私たちは「意思決定」していると分かってきました。

脳科学研究のなかでも、もっとも注目されている分野で、今や経済的判断、倫理的判断、さらには政治的判断まで、脳メカニズムは解明されようとしています。歴史上、今まで人間が思いもつかなかった最先端のトピックについて、三日間にわたり夜遅くまでみんなで議論を楽しみました。